

道設備設計事務所協会

12社が自社製品など発表

消火剤噴霧自動装置やエアコン

北海道設備設計事務所協会の技術発表会が、このほど札幌市内で開かれた。電気と機械の2分野、計12社が自社製品や事業展開をプレゼンテーションし、消火剤噴霧自動装置や工場向け空調機器などの情報を発信した。従来は賛助会員のメーカーによる発表が主だったが、今回からは一般会員からも受け付け、札幌市内の2社が取り組みを報告するなど情報交換の輪を広げた。

電気の部で発表した能美防災(本社・東京)は、スプリンクラーの代替設備として消火剤噴霧自動消火システム「フラスコシユα(アルファ)」を提案した。

同製品は最初に配管内の水を放水した後、タイ

マー制御で消火剤を140秒間放射し、30秒停止した後に再び消火剤を30秒放射する。「このサイクルを1分間繰り返す断続的な噴射は、放水障害によるソファーなどで起こる残り火に効果的。火災の拡大を抑える」と説明した。

製品は延べ面積が1万平方メートル以下の病院、診療所、社会福祉施設などに適用。本体ユニット、表示機、感知機、開放型ヘッド、開放型ヘッドの4部材で構成し、従来のパツケーシ型自動消火設備1型で用いられてきた



電気、機械の2部構成で情報発信した

消火専用感知器を感知開放ヘッド一つにまとめている。施工時に大規模なポンプや水道工事が不要な

上、樹脂管部材の採用で天井部への隠蔽(いんべい)施工が容易。「切断や接続時の騒音が少なく作業時間も短縮できる」などと強調し、専用感知器や区画電動弁を用いないシンプルなシステム構造で、維持管理が簡易な利点も示した。

機械の部で発表した三菱電機住環境システムズは、ホテル向けビル空調と設備用パッケージエアコン「ファシリアDD」を紹介した。ホテルの建設需要が高まる中、工場空調の分野では「法改正によってメンテナンス項目が増加し、現場では手間を要している」と指摘。さらに各製造業は、品質管理の強化や省エネ性を求めていると分析した。

送風機構造を見直したファシリアDDは「ケーシングが分割構造になっているためファンが取り外しでき、メンテナンスが容易」と説明。シロツコファンとモーターを直接接続インバーターで駆動するダイレクトドライブ方式を採用し、施工性

は、ホテル向けビル空調と設備用パッケージエアコン「ファシリアDD」を紹介した。ホテルの建設需要が高まる中、工場空調の分野では「法改正によってメンテナンス項目が増加し、現場では手間を要している」と指摘。さらに各製造業は、品質管理の強化や省エネ性を求めていると分析した。

このほか、電気の部で塚田設備管理(本社・札幌)が「公共建築設備工事における積算効率化の提案」Excelの限界に挑戦し、機械の部では池田煖房工業(同)が「省エネ事業を成功に導く」S-CAD A技術を題して、

それぞれの取り組みを報告した。